



嘉
103

拝啓 氣候未定

處 拝別後

逾 沛 健勝 國の為め

幸 慶祝 有 小生 在京

中 ハ 例 諸般 御懇

配 と 蒙リ 感銘 甚深

謝 有 出發 前告 別

中ハ例諸般ハ懇
配ト蒙リ感銘モ深
謝ヲ出發前告別
力カ為メ奏上ル處ニ不
在テ不得テ顔
因テ更ニ昇進之ノ仕
任中不得テ用事
種々之ノ方面より一時
輻湊ト救ヲ得ル重
ねテ各々之ノ暇ヲ得
ずシ之ノ遂ニ其ノ快心
外ノ闕禮多ク罪ハ
歸郷後早速呈書
之ノ仕ト之ヲ支テ著シ御後
程々之ノ儀ヲ代リ
之ノ因テ之ヲ為ス

程よく億千倍に

程よく億千倍に

久田様為め延引

今日より何未の

宥めよと成り

永田所候爵家の

名譽面目上と就

一生の微力なる遺

憾の事而も多

兎角

尊兄の内盡力を

懇希仕存の憚

奥方様へ互友

以鳳聲

相願も紙短情

長

懇希仕考以俾
奥方様へ至交
以鳳聲
相願其紙短情
長頭首持

四月廿四日

直彬

大隈仁兄先生

研北

尚と厚き以配慮の

以蔭と以て井伊家

の内部の都合も解

よりくお成帯子も

喜ぶ居も持知らる

と心も上国

直彬

大隈仁兄先生

研北

尚と厚き西配慮の

内蔭と以て井伊家

の内部の都合も解

よりくお成常子も

甚と信も持知らる

も心は上田家と令

田中左門なるも答

何れも替にお伺ひ義

可有くは向は美日指

揮お影も也